

## 縁起でもない！けど知っておきたい東京近郊の霊園事情 納骨堂

ファイナンシャル・プランナー 有田 美津子

今回は、東京近郊の霊園事情、ということで、多少費用はかさむけれども宗教や檀家に関係なく、抽選で当たらなくても買うことができる、民間霊園に墓を建てることについて考えました。墓の永代使用料と墓石・工事費を含むと百万円単位のお金がかかるのが民間の霊園墓地の購入です。しかし、だれもが墓の購入に大きなお金をかけられるわけではありません。

また、最近では「おひとりさま」の増加、ライフスタイルのグローバル化、死んでからのことより、生きているうちにより楽しくお金を使いたいという価値観、など、子孫が延々と墓を守るのは難しい時代にもなっています。

そこで、従来のように墓地に墓を持つ、ということだけでなく、埋葬の考え方も多様化しています。今年、パンフレットを増刷するほどの人気だった都立小平霊園の樹木葬など、記憶に新しい方もいらっしゃるかもしれませんが、今回は霊園以外の新しい墓のあり方を考えてみたいと思います。

霊園墓地以外の墓、とって思い浮かぶ埋葬の仕方としては、・納骨堂・樹木葬・散骨（陸・海）・永代供養・合祀・共同墓地・手元葬などでしょうか？言葉は聞いたことあるけど、具体的にはどんな供養で、いくらくらいの費用がかかるものなのか、気になるところですね。また、言葉は同じでもその中身は、さまざま。一概に比べることはできません。まずは、都心でも比較的安価に手に入り、管理も簡単な納骨堂について見てみましょう。

### 納骨堂とは？

墓埋法で他人の委託を受け焼骨を収蔵するために、納骨堂として都道府県知事の許可を受けた施設。墓苑のように屋外に骨を埋めるのではなく、建物内に骨を納める、ということで、法律上も「埋葬」ではなく、「収蔵」という位置づけになっています。

### 納骨堂の運営主体

寺院：一般的に檀家になる必要はなく納骨後のお布施や寄付金は求められない場合も多いようです。

宗派は問わないが、納骨後はその寺の宗派で祀られることが多いようです。

公営：都立霊園ほか自治体が運営する霊園 自治体によって居住年数や、遺骨があること、などの条件があります。

民営：運営は公益性のある法人（宗教法人・社団法人・財団法人）

広告民営の会社が行うようです。

### 納骨堂の種類

代表的にはロッカー型・仏壇型・墓石型・機械式などがあります。

ロッカー型：コインロッカーのような棚型のスペースにお骨を納めます。費用は比較的安価です。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

仏壇型：仏壇の中に遺骨を収納。写真や記念品などを一緒に収められる場合もあるようです。

墓石型：室内に墓石を並べます。霊園の墓地が室内に入ったようなイメージです。お参りの時には一般の霊園墓地と同じようにお花を飾ったり、線香を上げたりすることができます。

機械式：お参りする際に、機会を使って遺骨が入った厨子を礼拝室に呼び出す方式です。遺骨がカードで管理されていていつでもお参りできる場所もあるようです。

## 納骨堂の特徴

納骨堂は個人や家族の遺骨を室内に収める、ということ以外は一般の霊園墓地と同じです。ですから、管理費を払い続けている限りは、永久に使用することができます。(永代使用)

ただし、限られたスペースであることから、一定期間(三十三回忌)などを過ぎると永代供養の墓などに合祀されるところが多いようです。

建物の中に遺骨収蔵するため、小さなスペースを有効に利用することができ、都市部に立地している納骨堂も数多くあります。ただ、遺骨を収蔵するスペースも小さいため、先祖代々、大家族の遺骨を収蔵することには不向きです。その反面一定期間が過ぎた後は永代供養墓で供養されるため、夫婦のみの家庭、単身者など墓を受け継ぐ人がいない場合は、無縁仏になる心配なく、安心な遺骨の預け先といえるかもしれません。

## 納骨堂の費用

東京都内の場合、個人で20万円くらいから、家族(3~4人)で50万円くらい、中には特別室等と称して1000万円以上の個室を用意するものまでさまざまなものがあります。また、合祀(永代供養)であれば10万円以下の費用で納骨できる場所もあるようです。一般的には永代使用料を購入するだけで、墓石の費用もなく100万円未満のものが多いようですが、他に毎年、数千円から2万円程度の管理費がかかります。納骨堂の場合、単身者が多く購入することもあり、管理費を前払いで納めることもあるようです。

また、墓石タイプの納骨堂の場合、永代使用料のほかに墓石代・工事代がかかるのは墓地と同じですが、スペースが小さいため墓石も小さくなり、相対的に費用は安くなるようです。(墓石代50万~など)

## 最近の納骨堂事情

夫婦のみ世帯、単身世帯の増加から、納骨堂への需要が高まり、最近の納骨堂は従来のイメージとはちょっとちがう、さまざまな工夫を凝らしたタイプも増えてきているようです。たとえば、

- ・個室でゆっくりにお参りができる。
- ・希望すれば祭壇のところに遺骨を運んで来てくれる。(参拝の度に志が必要)
- ・遺影や思い出の写真をモニター画面に映すことができる。

(写真を登録するとき4~5万円程度の費用が必要)

- ・スライドショーをモニター画面に映すことができる

(製作費や登録料で5~6万円程度は必要)

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

- ・タッチパネルにカードをかざすと機械式で遺骨が祭壇に運ばれ、モニターに遺影が映し出される。  
など。

納骨堂だけでもさまざまな特徴と価格があり、残された家族、親族が購入するには大変な労力と、墓苑よりは安価とはいえ、大きなお金がかかります。次回以降、考えてみたい樹木葬、散骨なども含めて、自分がどのような形で埋葬、収蔵してほしいのか、また、自分が亡き後はだれにどのような形で墓、または遺骨を守ってほしいのか、また、家族は墓を持つことに対してどんな考えを持っているのか、生前に話し合っておく必要があるようです。